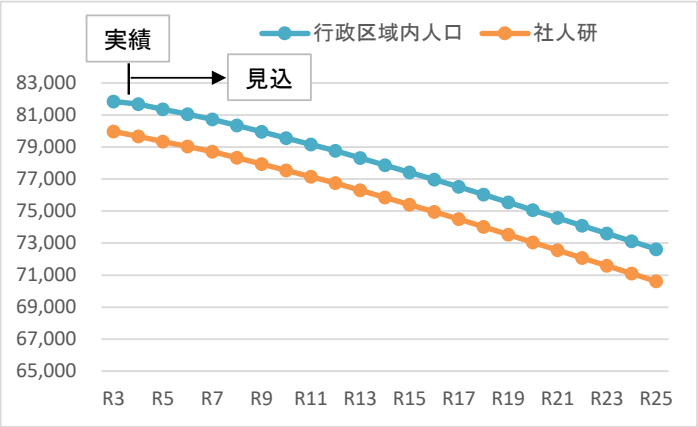
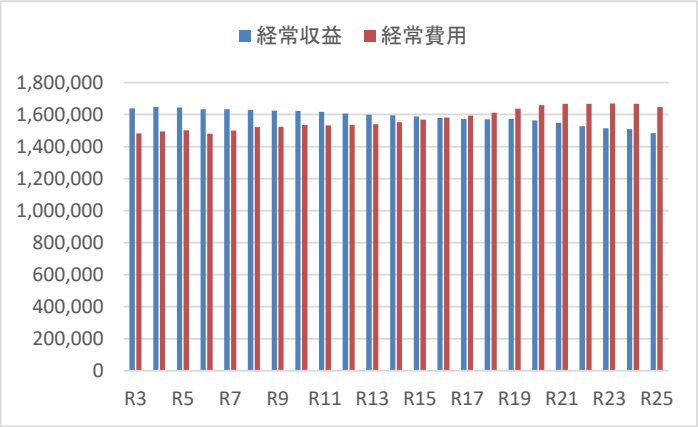
①人口の推定



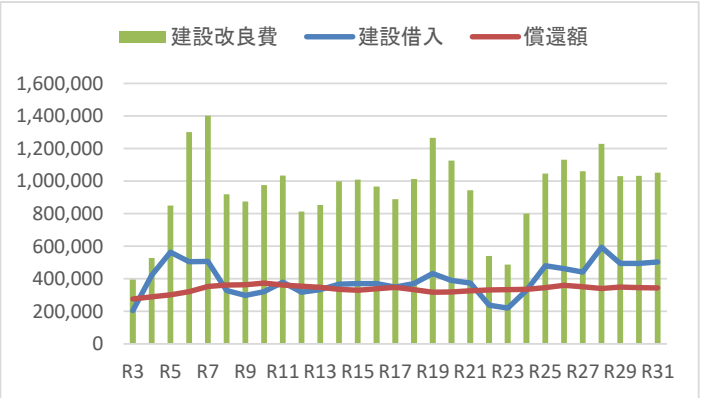
国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計値およびそれに基づいて作成した市内人口の推移。
オレンジ色で示した推計値に対し、R4年度末時点における実績値がズレているため補正し、人口減少割合のみ参考にしている。

②収益・費用の見通し



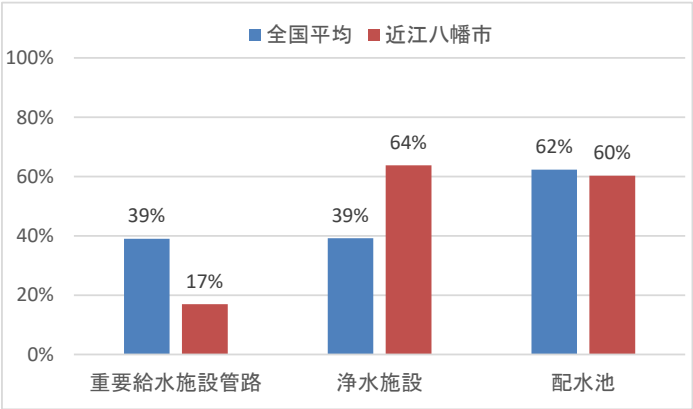
①の人口減少に伴って収益も減少していく見込み。それに対して、費用については動力費の上昇や減価償却費の増大によって増加していき、R17年ごろには赤字となる。
それまでの間に料金の改定を検討・実施していく必要がある。
ただし、この見通しはリスクを大きく想定し、厳しめに算定しているため、実際の決算時には改善されている可能性が高い。

③建設改良費および企業債借入・償還額の推移



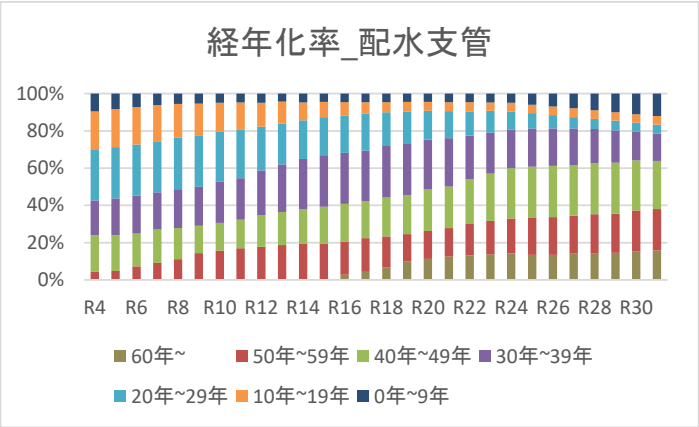
建設改良費は配水池や重要管路の耐震化、老朽管の更新行っていく必要があり、8～10億円ペースでの費用が想定される。
企業債についても一定割合で借入を行ってくため、同様に推移する。

④管路、浄水施設、配水池の耐震化率



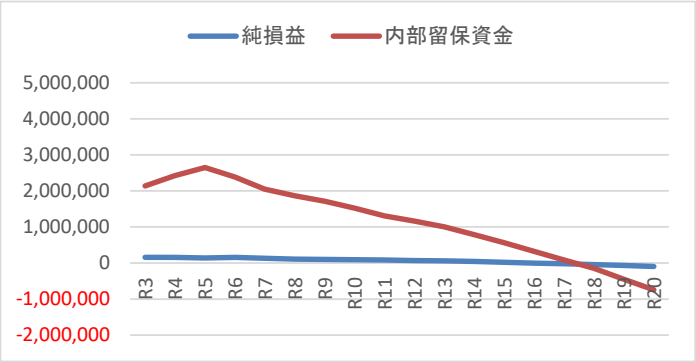
耐震化率の全国平均と当市の比較表。
病院などの重要給水施設への管路の耐震化率については、全国平均を下回っている。今年度進めている工事が完了すれば約24%になる見込みであり、今後も重点的に更新工事を進めていく。
浄水施設については令和2年度に実施した岩倉浄水場改修により平均を上回っている。
配水池については平均を下回っているが、現在進めている円山配水池耐震化工事が完了すれば90%を超える見込みである。

⑤管路の経年化率の見込み



管路の老朽化具合を表すグラフ。
赤色・茶色で示す50年以上経過した管の割合が増加していく。ただし、近年になって製造された管は耐久性が上がっており、実耐用年数は伸びていると考えられる。

⑥純損益・内部留保資金の見通し



内部留保資金については、今後の投資増大、収益減少によって減少していく。
緊急時の資金繰りを考慮し、１０億円確保を目安としているが、R14年にはそのラインを切り、R18年には資金が尽きてしまう見込みとなっている。